

ニュージーランドの最高の10日間！



公益財団法人 加古川市国際交流協会
Kakogawa International Association

目 次

ごあいさつ

公益財団法人 加古川市国際交流協会

理事長 樽本 庄一 ————— 1

中学生海外派遣

オークランド市の紹介 ————— 2

団員プロフィール ————— 3

派遣団日程表 ————— 4

事前研修・結団式 ————— 5

派遣団員による10日間の記録 ————— 6

事後研修・帰国報告会 ————— 15

団員レポート ————— 16

思い出のページ ————— 38

これからの活躍を期待して

2018年12月本年に出入国管理法が改正されるなど、外国人労働者の受け入れ拡大が進められ、より多くの外国人が居住され、就労されることが見込まれています。

現在約2,600人を超える外国人が市内に住まれ、生活されており、在住外国人の中には、言葉や文化、生活習慣の違いから、日本での生活に困惑し、助けを必要とされている方も増加しています。

このような状況において、在住外国人の方に手を差し伸べるなど、市民レベルでの草の根的な国際交流の必要性がますます高まっています。

当協会では、「地域に根ざした国際交流」を推進するため、外国人からの相談に対応するとともに、外国人に対する日本語講座や、英会話をはじめとした語学講座など様々な事業を実施しています。

また、次代を担う若者を姉妹都市に派遣し、そこでの交流を通じて外国人への理解を深めて国際的視野を持ち、国際親善に貢献できる行動力のある国際人を育成することを目的として、中学生海外派遣事業、障がい者海外派遣事業、青年海外派遣事業を行っています。

中学生海外派遣事業は、28回目となる今回もニュージーランド・オークランド市に10名の中学生を派遣し、友好親善を深めてまいりました。今回の派遣により、派遣生が国際理解を深め、草の根的な国際交流の中心的役割を担う人材になっていくことを確信しています。

結びになりますが、この中学生海外派遣にあたってご理解、ご協力を賜りました保護者の皆さまをはじめ、関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成30年12月

公益財団法人 加古川市国際交流協会

理事長 樽 本 庄 一

オークランド市の紹介

オークランド市は北島の北部に位置し、一大ビジネス地区を有するニュージーランド最大の都市です。民族はマオリ族をはじめ多岐にわたり、多様性に富んだ文化が育まれています。マヌカウ湾とワイテマタ湾の間に位置するオークランド市では、点在する島々、海岸、森林保護地など自然が豊かに息づいており、誰もが気軽にレジャーを楽しむことのできる環境が整っています。また、気候は穏やかで、生活の質、水準ともに世界最高レベルを誇っています。

加古川市は、1992年にワイタケレ市と姉妹都市提携しました。その後、ワイタケレ市は2010年にオークランド市をはじめとする周辺の市町と合併し、現在のオークランド市となりました。これにより、加古川市とワイタケレ市の姉妹都市交流は、オークランド市との交流に引き継がれることとなりました。

オークランド市と加古川市 ～交流のあゆみ～

1991年（平成3年）	8月	第1回加古川市中学生海外派遣団がワイタケレ市を訪問
1992年（平成4年）	3月27日	財団法人加古川市国際交流協会（現・公益財団法人）設立
	5月	第1回ワイタケレ市学生海外派遣団が加古川市を訪問
	5月4日	加古川市・ワイタケレ市の姉妹都市提携に調印
1996年（平成8年）	6月	姉妹都市提携5周年記念として、ワイタケレ市からトーテムポールの寄贈を受ける
1998年（平成10年）	2月	ワイタケレ市に日本庭園を寄贈
2000年（平成12年）	6月	ワイタケレ市親善訪問団が市制50周年記念式典出席のため加古川市を訪問
	6月11日	加古川市国際交流センター開館
2001年（平成13年）	8月	ワイタケレ市に救急車を寄贈
2009年（平成21年）	11月	ワイタケレ市制20周年記念として、ワイタケレ市に「平和の鐘」を寄贈
2010年（平成22年）	6月	加古川市制60周年記念式典出席のためワイタケレ市訪問団が加古川市を訪問
	11月1日	ワイタケレ市が近隣市町と合併し、オークランド市となる
2012年（平成24年）	5月14日	加古川市・オークランド市の姉妹都市提携に調印
2018年（平成30年）	8月	第28回加古川市中学生海外派遣団一行12名がオークランド市を訪問



加古川市が寄贈した「平和の鐘」



オークランド市との姉妹都市提携の調印式

団員プロフィール（50音順）



稲岡 諒
灘中学校3年
INAOKA RYO



宇仁菅 珠羽
啓明学院中学校3年
UNISUGA MIU



古賀 真尋
中部中学校3年
KOGA MAHIRO



橘 萌菜
中部中学校3年
TACHIBANA MOENA



土田 康誠
平岡中学校3年
TSUCHIDA KOSEI



戸塚 彩
山手中学校3年
TOTSUKA AYA



成瀬 綾音
加古川中学校3年
NARUSE AYANE



濱田 茜
山手中学校3年
HAMADA AKANE



廣瀬 生汰
平岡中学校3年
HIROSE SEITA



福田 拓音
滝川第二中学校3年
FUKUDA TAKUTO

引率

小林 奏子
平岡中学校教諭
KOBAYASHI KANAKO

梅谷 真紀
加古川市国際交流協会
UMETANI MAKI

派遣団日程表

(NH=全日本空輸 NZ=ニュージーランド航空)

月日	場所	交通機関	行 程	宿泊先
8月13日 (月)	加古川発 伊丹空港 羽田空港	市バス NH36 NZ092	加古川市国際交流センター出発 羽田空港へ向け出発 オークランド国際空港へ向け出発	機中泊
8月14日 (火)	オークランド	専用車	オークランド国際空港到着 オークランド市内見学 ホストファミリーと対面、ホームステイ先へ	オークランド市で ホームステイ
8月15日 (水)	オークランド		ワイタケレ日本庭園訪問 オークランド博物館訪問 オークランド市役所表敬訪問	オークランド市で ホームステイ
8月16日 (木)	オークランド		ラザフォード・カレッジ訪問 授業体験	オークランド市で ホームステイ
8月17日 (金)	オークランド		ラザフォード・カレッジ訪問 授業体験	オークランド市で ホームステイ
8月18日 (土)	オークランド		ホストデー 終日ホストファミリーと行動	オークランド市で ホームステイ
8月19日 (日)	オークランド		ホストデー オークランド動物園見学	オークランド市で ホームステイ
8月20日 (月)	オークランド ロトルア		アグロドームにて羊の毛刈りショー テプイヤ見学	ホテル
8月21日 (火)	ロトルア オークランド	↓	レッドウッド森林公園散策 オークランドへ向け出発	ホテル
8月22日 (水)	オークランド 成田空港 伊丹空港 加古川着	NZ099 NH2179 市バス	成田国際空港へ向け出発 伊丹空港へ向け出発 伊丹空港到着 加古川市国際交流センター到着	

事前研修

選考会で選ばれた10名の派遣生は、加古川市の代表としてオークランド市を訪問することの認識を深めるために5回の事前研修に臨みました。事前研修では、まず加古川市における国際交流の現状や当協会が実施している事業について学びました。

続いて、ニュージーランドの歴史や文化、自然など基礎的な知識を学びました。

また、派遣生はポスターブック（オリジナルの自己紹介冊子）を作成し、ホームステイ先で自分や家族、日本や加古川市のことを英語で紹介する準備をしました。

英語研修では、ニュージーランド出身のジョアン・ジェイミソンさんによる、実践的な英会話を学びました。さらに、昨年度の派遣生を招いての座談会では、ホームステイや学校訪問など実際の体験談やアドバイスを聞くことができ、より一層海外派遣への期待が高まりました。

また、訪問先の学校で披露する歌の練習を派遣生が協力して行うことで、派遣生同士の仲は深まり、派遣団の絆（結束）はゆるぎないものとなりました。



ジョアン・ジェイミソンさんによる英語研修

事前研修日程

第1回	7月1日	オリエンテーション、自己紹介
第2回	7月15日	ニュージーランドについて
第3回	7月22日	英語研修、現地で披露する歌の練習
第4回	8月2日	昨年度派遣生との座談会、歌の練習
第5回	8月10日	英語研修、滞在上の注意、決意表明

結団式

8月4日（土）に国際交流センターにて、結団式を実施しました。加古川市長や加古川市議会議長から激励のお言葉をいただき、加古川市を代表して派遣されることへの責任を改めて感じました。また、国際ソロプチミスト加古川から現地で使用するリュックをいただきました。そしてリーダーの成瀬さんが派遣にかかる意気込みを力強く宣誓しました。



リーダーの成瀬さんによる宣誓



結団式後に記念撮影

派遣団員による10日間の記録

8月13日(月)・14日(火)

戸塚 彩

ニュージーランドに行く日がついにやってきました。国際交流センターに集合し、出発式を行いました。出発式が終わるとたくさんの人に送られ、バスで伊丹空港へ移動しました。バスの中では、みんなで大爆笑してより仲が深まったように感じました。

伊丹空港を経由した後、羽田空港でパスポートの確認と荷物検査を行いました。その後、少し時間があり、自由行動を楽しみました。出発時間になると飛行機に乗り、オークランド国際空港へ向け出発しました。

私は飛行機に乗ることが初めてでとても楽しみでした。機内ではビデオを見たり、音楽を聴いたり、夜はみんなでチャットをして楽しみました。

約11時間のフライトを終え、オークランドに到着しました。正直あまり実感がわきませんでした。でも周りの看板、標示、人々の会話すべてが英語で、いよいよだなと思いました。まだまだ不安はたくさんありましたが、現地で過ごす10日間がとても楽しみになりました。



ニュージーランド航空

8月14日(火)

橘 萌菜

10時間のフライトを終えて飛行機から降りると、空港でも街中でも見渡す限り標識や看板すべてが英語表記で、「ニュージーランドに来

たのだ」と感じてワクワクしました。そして私たちはすぐにバスでホテルに向かって、昼食にフィッシュ&チップスを食べました。その後、クイーンズストリートやスカイタワー、ビックホイール、ハーバーブリッジをバスから見ることができました。日本と交通ルールがよく似ていてとても驚きました。

次にラザフォード・カレッジに向かい、いよいよホストファミリーとの対面です。私は初めての体験でとても緊張していましたが、ホストマザーが優しく出迎えてくれたので一瞬で不安は吹き飛び、この10日間への期待が膨らみました。家に帰る車の中や、夜ご飯の時に、ホストファミリーがたくさん話しかけてくれたり、質問してきてくれたおかげで自分からも積極的に英語をつかうことができたので良かったです。



ホストファミリーと対面

8月14日(火)

成瀬 綾音

長かった10時間のフライトを終え、目が覚めると窓の外にはニュージーランドの街が広がっていました。空港を出るとすこし肌寒かったので、迷わずジャケットを羽織りました。そしてガイドのおさむさんと合流し、バスによってレストランへ行きました。お昼ごはんはフィッシュ&チップスでとてもおいしかったです。おなかを満たしたところで、次はバスで市内観光をしました。オークランドは、都会でもどこか

に緑があり、身近に自然を感じられる街でした。そのあとは、ラザフォード・カレッジに行きました。ラザフォード・カレッジに着くと、みんなのホストファミリーが待っていました。いよいよホストファミリーとの対面です。私のホストファミリーは、5人も子供がいる大家族で、最初は緊張しましたが、みんなが笑顔で「ハロー！！」と迎えてくれて、落ち着くことができました。同じ年のホストシスターが「なんでも聞いて！」と言ってくれたのですごく嬉しかったです。



私のホストファミリー

8月15日(水)

宇仁菅 珠羽

この日は、日本庭園とオークランド博物館を見学した後、加古川市の代表として表敬訪問をしました。オークランド博物館には、マオリの歴史やニュージーランドの歴史に関するものが、たくさんありました。マオリの文化は、私達日本人と似ている文字の読み方や、日本人の文化にはない、威嚇する時の顔などがあり、終始驚くことばかりでした。一番驚いた事は、ニュージーランド兵と日本兵が戦っていたという事です。教科書にはこのことが載っていなかったので教科書が全てではないという事を学ぶことが出来ました。

表敬訪問では、品川区から来ていた派遣団とともにオークランドの市議会議員を訪問させて頂きました。私たちは、滝廉太郎さんが作曲し

た「花」を日本の歌として歌いました。オークランド市関係者の方々が、笑顔で聞いて下さり、とても嬉しかったです。その後、オークランド市役所庁舎の建物内を紹介して頂き、オークランド市の姉妹都市に関連する綺麗な織物や置物を見せて頂きました。今日1日の体験を通して、お互いの文化や歴史を学ぶことはとても有意義なことだと思いました。



マオリの集会所 マラエ

8月15日(水)

廣瀬 生汰

加古川市がオークランド市合併前のワイタケレ市に寄贈した日本庭園の視察、オークランド博物館の見学、オークランド市庁舎を表敬訪問しました。庭園は思っていたよりも小さかったのですが、とても立派に見えました。平和の鐘には日本語と英語でメッセージが書かれており、加古川市のマークも刻まれていました。

博物館はとても大きく立派な建物で、マオリ族の集会場や船、日本の零戦が展示されていて、壁には第一次・第二次世界戦争で犠牲になられた方の名前が刻まれていました。館内の説明は英語ばかりでしたが零戦の説明は英語と日本語で書かれていました。ガイドさんの説明の中で、たくさん興味深い内容があったので、何度も感心しました。

市庁舎の表敬訪問では自分が挨拶をする役割があり、とても緊張しましたが、しっかりと英語で話すことが出来ました。オークランド議員

の方と話す時間もあり、とても貴重な時間を過ごすことが出来ました。



平和の鐘

8月16日(木)

土田 康誠

この日は、「ラザフォード・カレッジ」へ行き、マオリの歓迎の式と授業を受けました。マオリ族の「ハカ」は、生徒の皆さんが精一杯声を出しながら、僕たちを歓迎してくれました。あまりの迫力に、僕らは少し怖がってしまいました。ショーの後は、生徒の皆さんと一緒に、ゲームをしたりお菓子を食べたりしながら一緒に過ごしました。



マオリの歓迎式

マオリの歓迎式の後は、バディの人とペアを組み、学校の授業を受けました。なんとといっても授業のチャイムが独特で警報のようなチャイムでした。僕はこの日、体育と技術の2つを授業として受けました。体育は日本と違い、各自が好きなことをする自由な雰囲気での授業でし

た。ラグビーを僕も少しだけ混ぜてもらいましたが、日本の中学校三年生では背が高い方の僕を軽々超すような人がいっぱいいて、こちらに走ってくるとさすがに怖かったです。

技術や体育を含め、日本とは異なっていることがたくさんあり、とても良い経験となった1日でした。

8月17日(金)

古賀 真尋

17日は、ラザフォード・カレッジでの授業体験2日目でした。バディとは昨日の交流を通して仲良くなっていたので、私は朝から楽しみにしていました。しかし、私のバディは用事で遅刻して来たので、1時間目は全く知らない女の子のグループに入れてもらいました。少し緊張していましたが、優しく話しかけてくれて、ホッとしました。お昼はバディ達とピザを食べました。美味しく、また色々な話が出来て楽しかったです。



バディとランチ

この2日間で、ラザフォード・カレッジの生徒は優しい人ばかりだと思いました。私が困っていると、「どうしたの?」と声をかけてくれました。バディやクラスメートなど、たくさんの人に助けられました。私も困っている人を見かけたら、声をかけることができるようになりたいです。

私は、海外の学校で勉強することが1つの夢だったので、2日間、ラザフォード・カレッジ

に行って授業を受け、新たな友達ができて、本当に良かったです。

8月18日(土)・19日(日)

稲岡 諒

2日間のホストデーがいよいよ始まりしました。1日目、僕はホストファミリーと共に、ホストブラザーのラグビーの試合を観に行きました。僕は初めて実際にラグビーの試合を観たのですが、ホストブラザーの熱心にラグビーをする姿を見て、迫力と共に感動を覚えました。



ホストブラザーのラグビーチーム

2日目は少し遅めに起床して、まずホストマザーと共にショッピングモールとスーパーマーケットに行きました。特にスーパーマーケットは日本と比べて規模が格段に大きく、思わず見上げるほどでした。そして買い物を終えた後、僕はホストファミリーの為に、日本の伝統的な料理「いなり寿司」を作りました。正直日本でも殆ど作った事が無かったので、上手く出来るか、そしてホストファミリーに受け入れられるか不安でした。しかし「美味しい」と言ってもらえた事が何よりの喜びに繋がりました。

この2日間はホストファミリーと出会えて本当に良かったなと自然に思えるくらい充実していました。

8月18日(土)・19日(日)

宇仁菅 珠羽

ホストデー1日目は、ホストファミリーと一緒にモーニングを食べて、園芸センターに行きました。夕方には、スカイタワーに行きました。どこを見てもとてもきれいな景色ばかりでいつまでいても飽きませんでした。

夕食はホストマザーの友達のマオリの家族の家でパーティーでした。みんなとても速いスピードで喋っていたので、最初はついていけませんでしたが、慣れていくと少しずつ単語がわかっていきました。その時はとても嬉しかったです。

ホストデー2日目は、フェリーでティリティリマタンギ島に行きました。とても自然が豊かで、野鳥の声を聴くことが出来ました。また、ニュージーランドでしか見ることのできない花や植物を見ることが出来てとてもいい経験になりました。夜はみんなでご飯を食べた後、私が所属している音楽チームのDVDを見ました。喜んでくれて嬉しかったです。この2日間でたくさんの貴重な体験をすることが出来ました。



ホストシスターとスカイタワーでアイス

8月18日(土)・19日(日)

古賀 真尋

18日、19日はずっと楽しみにしていたホストデーでした。1日中ホストファミリーと過ごすので、期待と不安が入り混じってしまし

た。しかし、すぐに楽しいということしか考えていませんでした。

私は色々なことをさせてもらいました。ワン・ツリー・ヒルという死火山に登ったり、放牧されている羊を見たり、海でアイスを食べたり、スーパーで買い物をしたり、日本食を作ったり、どれも楽しかったです。

その中でも、私が1番心に残っているのは、スカイタワーに上ったことです。数日前の夕食の時に、「どこに行きたい？」と聞かれ、行きたいと思っていたスカイタワーを提案したら、連れていってくれました。スカイタワーはとても高く、オークランドを一望できました。オークランドは、都市でもありながら自然もあり、とても素敵な街だなと思いました。

私はこのホストデーを通して、ホストファミリーとの会話が増え、今まで以上に仲良くなりました。この2日間は、私にとって最高の休日になりました。



海でアイス

8月18日(土)・19日(日)

橘 萌菜

ホストデーの1日目は、派遣生の濱田さんと戸塚さんと一緒に犬の散歩をしに公園へ行きました。アヒルがたくさんいる公園で、とても楽しかったです。その後はオークランドの市街地の方へ行って、お土産ショップに行ったり大きいモールに行ったりしました。お昼ご飯には、

お寿司を食べました。ホストマザーが連れて行ってきて、すごく美味しかったです。また、ウィンターガーデンにも行きました。冬にもかかわらずたくさんの植物があり、綺麗でした。

2日目は、朝からホットプールに行きました。そのプールの水深が1.6メートルから2.3メートルもあり深くて驚きましたが、すごく楽しかったです。プールの後は、バースデーパーティーに行きました。日本とは全然違うことばかりで、少し困ったこともあったけれど、2度とこんな体験はできないので、とてもいい経験になりました。この2日間は、私にとってホストファミリーと1番コミュニケーションをとれた貴重な2日間でした。



アヒルがたくさんいる公園

8月18日(土)・19日(日)

土田 康誠

ホストファミリーの家族は皆朝起きるのが遅く、最初から少し戸惑うことが多かったです。また、日本と比べて長い間1日中家でゆっくりしていました。僕がリビングでファミリーと話していると、ホストファザーと一緒にスーパーに連れて行ってくれました。スーパーの中はとても広く、日本では「コストコ」のような感じの広さでした。中には、日本のように小売で売っているものは少なく1キロのバターや肉など文化の違いを改めて感じました。

2日目は、ホストファザーがホストブラザー

と一緒に海へ連れて行ってくれました。波がかなり激しかったですが、とてもきれいでした。岩の上にも上りましたがホストブラザーと一緒に水際を歩いていて水がかかり大笑いしました。1日の全てが英語という、普段日本ではできないような体験をすることができました。もう少し英語が話せるようになって、またホストファミリーと過ごしてみたいです。



ホストブラザー

8月18日(土)・19日(日)

戸塚 彩

2日間のホストデーのうち、18日は派遣生の濱田さん、橘さん、そのホストファミリーと一緒に朝からオーケーショップへ買い物に行きました。お薦めの商品を教えてもらい、たくさんお土産を買うことが出来ました。昼は、日本のお寿司を食べました。店員さんも日本人でとても嬉しかったし、安心しました。

19日は、再び派遣団の2人とホットプールへ行きました。約1時間泳いで楽しかったです。昼からホストファミリーと一緒に出かけました。昼ご飯にフィッシュ&チップスを買ってもらい、車の後ろにシートをひいて、3人で座って食べました。初めはすごく驚きましたが、外国らしいと感じました。

夜は、日本から持ってきた材料でお好み焼きを作りました。失敗せずに作れるか、またホストファミリーの口に合うかという不安はありました。でも「ベリーナイス」と何度も言って食

べてくれました。すごく嬉しかったです。とても楽しく最高の2日間になりました。



ホストファミリー

8月18日(土)・19日(日)

成瀬 綾音

楽しみにしていたホストデーがやってきました。1日目の午前中は、ホストブラザーのラグビーを見に行きました。10歳~14歳くらいの男の子たちが同じユニフォームに身を包み、楽しそうに試合をしていました。ラグビーのルールは知らなかったけど、知らない人たちと「ゴー!!ゴー!」と応援しているうちに、自分も楽しくなってきました。思わぬところでスポーツのグローバルパワーを体感しました。おかげで今はラグビーが大好きです!

お昼には、お好み焼きをふるまいました。料理が苦手な私とホストシスターで四苦八苦しながらなんとか完成しました。みんなが「おいしい!!」と言って食べてくれたので嬉しかったです。

2日目は、車で40分ほどかけて、少し離れた田舎にあるビーチに行きました。山の斜面を息を切らして登りました。開けた景色の先にあった太平洋を見た時は、思わず息をのみました。ほんとうにきれいでした。改めてニュージーランドの大自然を肌で感じる事ができました。充実したホストデーになりました!!!



ビーチにて

8月18日(土)・19日(日)

濱田 茜

私のホストマザーであるモニカさんは毎日仕事なので、近くに住むモニカさんの実家に私を送り、出勤していました。忙しい中、毎日学校で食べるランチ用にツナのサンドイッチとバナナやチョコチップマフィンを用意してくれました。仕事が終わると私を迎えに来てくれ、それがお母さんみたいで、本当の家族の様に感じられました。

ホストデーでは、同じ派遣生である橘さんと一緒にお泊りしたり、海を見に行ったり、家族のようでした。



公園にて♪青空とブラックスワン

1日目はギフトショップや、植物園、日本食を食べに行きました。2日目は朝にホットプールに行きました。水着を持っていなかったけれどモニカさんが貸してくれました！温泉のようでいい運動になりました。その後に従妹の誕生

日パーティーに招待され、絵本に出てくるような可愛い小さい子達に癒されました。その後は、橘さんと一緒に日本食を作りました！見た目はあまり良くなかったけど、美味しいと言ってくれたので嬉しかったです。

私にとって、モニカさんは本当に家族みたいで、お母さんのようでお姉ちゃんのもありました。恋の話や、お買い物と一緒にして、大好きになりました！！

もうすでに会いたいです。大学を卒業したらまた会いにきてね！と言ってくれたので絶対に行きたいと思います。それまでもっともっと英語をマスターしてもう一度言ってくれる？と言われたいようにしたいです。

8月18日(土)・19日(日)

廣瀬 生汰

ホストデーの1日目は中国人留学生と一緒にクイーンストリートへ電車で行きました。途中で道に迷ってしまったのですが、なんとか無事に目的地まで辿り着くことが出来ました。クイーンストリートでは、たくさんのお土産を買いました。買い物した後、南半球で最も高いスカイタワーに行き、とても美しいオークランドの街を一望しました。その後、帰宅し、中国人留学生とは、そこでお別れになりました。

2日目はホストファミリーとビーチに行きました。みんなでクリケットをしたり、木登りをしたり、お昼寝をしたり、色々していたら、あっという間に時間が過ぎてしまいました。車で帰宅する途中、たくさんの羊を見ることが出来ました。夕食は僕が日本食を作り、最後に僕からホストファミリーに感謝の気持ちを込めて書いた手紙を渡しました。そしてホストファミリーからお土産として文房具をいただきました。この2日間は絶対に忘れません！！2日間貴重な経験ありがとうございました。



みんなで木登り

8月18日(土)・19日(日)

福田 拓音

今日から2日間はホストファミリーと過ごすホストデーです。

1日目の午前中は、ホストブラザーがスイミング教室に行っていたので、僕はホストマザーに頼んで大きなショッピングモールに連れて行ってもらいました。コストコよりも広く感じたので、とても驚きました。そこでお土産のチョコをたくさん買いました。午後はホストブラザーと、その友達と3人で自転車のレースをしました。ハンデをあげても勝てたので、嬉しかったのですが、風が冷たくて喉を痛めてしまいました。



ホストブラザーと記念写真

2日目は、朝からスーツケースの用意をしました。その後お昼を早めに食べて、みんなで公園に行きました。鳥がたくさんいました。近づきすぎて、1度指を噛まれてしまいました。で

もその分、とてもいい写真を撮ることができたので良かったです。夜はモノポリーというボードゲームをしました。ルールがよく分からなかったけど、ホストブラザーが丁寧に教えてくれました。本当に、いいホストデーになりました。

8月20日(月)

濱田 茜

ホストファミリーとさよならし、すぐにロトルアへ行きました。思っていたより遠く、バスの中で皆の顔を見たらなぜかホッと寝てしまいました。そして、ロトルアに到着！まず、羊の毛刈りショーを見ました。毛刈りの前に色々見学し、沢山の種類のヒツジを見ました。毛刈りが始まると日本語に同時通訳してくれていたのだから考えることなく楽しく見ることができました！

毛刈りは少し痛そうに見えましたが、すっきりして毛刈り後の別人、いえ別羊に何だか少し笑ってしまいました。



男子！マオリショーに参加！！

夜、滞在先のロトルアで観た、大人の方のマオリショーはとても迫力があり、思わず声が出るほどでした！とにかくカッコよかったです。日本にはそういう文化がないので、すごく興味がわきました。その日の夕食はマオリの伝統的な料理で私はラム肉が気に入りました。ニュージーランドに来て一番文化の違いを感じたのが

マオリショーでした。キアオラという挨拶も私から言うことができ、コミュニケーションがとれました。みんなと過ごして仲が深まりとってとっても楽しい日でした！あと一日と思うと、今日が一生続け！と思った日でもありました。

8月21日(火)

福田 拓音

この日は、ロトルアのホテルを出てオークランド動物園に行き、最後にショッピングをするという流れでした。

レインフォレストでは、太陽の光をさえぎってしまうくらい木々が並んでいたの、かなり寒かったです。どこを見渡しても木が並んでいるばかりだったので、迷子になった気分になりました。とても幻想的で面白かったです。

お昼は、バレンタインというレストランで食べました。バイキング形式だったので、甘いものをたくさん食べました。



動物園のチーター

その後、オークランド動物園に行きました。自由行動になったけど、結局みんなでまわりました。そこでキーウィを見ることができました。とても暗い所にいたので、見えづらかったです。でも、近くまで来てくれたので、とてもラッキーでした。

最後にみんなでアオテアギフトショップに行きました。棚がすべて低くなっており、取りやすかったです。そのお店で、担任の先生へのお

土産とマヌカハニーを買いました。また、メンバー10人でおそろいのTシャツを買いました。カッコいいので気に入っています。いろいろな経験ができて、とても楽しい1日となりました。

8月21日(火)・22日(水)

稲岡 諒

今までの楽しい体験を思い出しながら、ニュージーランドでの最後の夜をホテルで過ごし、ホテルを出発しました。そして、空港に向かったのですが、空港が見えた瞬間、「もうすぐニュージーランドを去る」という、当たり前だけれど受け入れ難い事実が、頭の中をよぎり寂しい気持ちになりました。その後、成田空港行きの約10時間のフライトを、皆で揃えて買ったTシャツを着て過ごしました。この10時間は自分にとってあつという間でした。

成田空港に到着した時、日本特有の蒸し暑さを感じながら、自分が日本に帰ってきたという事を実感しました。その後、伊丹空港を経由して国際交流協会に沢山の人に迎えられ帰ってきました。

今回の研修は、9人の仲間と共に作り上げてきたからこそ忘れられない思い出が沢山あります。感謝を伝えるべき人は他にも沢山いますが、この9人の仲間には再度感謝の意を伝えたいと思います。本当にありがとう。



いざ、日本へ

事後研修

9月9日（日）国際交流センターにて事後研修を実施しました。

研修では、報告書の作成や現地で撮影した写真の交換、学校訪問で訪れたラザフォード・カレッジへのお礼の色紙作りをしました。また、派遣生から本事業への意見として、「普通の生活では味わえない貴重な経験をすることができた」「何事にも挑戦する大切さを学んだ」「現地の人との交流を通して、ニュージーランドの文化を知ることができた」などの声が聞かれました。

帰国報告会

11月4日（日）に「国際交流セミナー」のプログラムの第一部として、国際交流センターで帰国報告会を行いました。派遣生は、現地で経験したことや学んだこと、これから取り組んでいきたいことなどをそれぞれの言葉で報告しました。

「ニュージーランドのマオリの文化は、多くの人の努力や協力で受け継がれていると学んだ」「長年、市民同士がふれあい、育まれた姉妹都市交流のおかげで素晴らしい体験ができた」と派遣を通して学んだことを述べました。堂々と報告する派遣生の姿からは、今回の派遣で大きく成長した様子が感じ取られました。

帰国報告会に出席された岡田市長は、「皆さまの海外での貴重な体験は、今後の人生の様々な場面で必ず大きな糧になると思います」と述べられました。



発表する派遣生



岡田市長の挨拶



発表する派遣生

団員レポート

繋げ、「一瞬」を「一生」へ

灘中学校

稲岡 諒

この文章を書いているのは、8月23日、つまり帰国を終えた次の日なのですが、未だに自分が日本に帰ってきたという感覚がありません。そう思うくらい、今回ニュージーランドで過ごしたこの10日間は、本当に充実した自分にとってかけがえの無い日々でした。

海外派遣の合格が決まり、事前研修を終え、いよいよ日本を飛び立つ研修初日。僕は言葉では簡単に表すことが出来ないような、希望と緊張が入り混じった複雑な気持ちを持ちながら、国際交流センターを多くの人に見送られて出発しました。伊丹空港に向かうバスに揺られ、羽田空港行きの飛行機に乗り、そしてオークランド行きの飛行機に乗り込みました。オークランドは一体どんな所なのだろう、自分が思い描いているような日々は過ごせるだろうか等々、沢山の思いがその移動



開放感に溢れていた学校

中に湧き出してきました。しかし、それらの思いは更に自分の意欲をかきたてる良いきっかけになったと思います。

そういう思いを抱えながらオークランドの地に降り立ち、現地での研修が始まったのですが、そこで過ごした時間は自分にとって本当に「一瞬」と感じられるような素晴らしい体験の連続でした。

1つ目はホームステイです。正直

ホームステイが始まる前は、ある程度自分の英語力に自信を持って、ホストファミリーの方にお会いしました。しかし、想像していたよりも英語での会話は遥かに難しく、聞き直したりする事がしばしばありました。そういった状況の中で、最初の方は本当に自分がこのホストファミリーの中に溶け込むことが出来るのかという不安を抱えていました。しか



荘厳なマオリ文化

し、拙いながらも会話を繰り返し、自分から交流していこうと働きかけることで、そういった不安は一切無くなりました。そして、ホストファミリーと別れる日には思わず泣き出しそうになるほど、不安が笑みに変わるような楽しい時間を過ごす事が出来ました。

2つ目はラザフォード・カレッジでの授業体験です。自分が通っていない学校で授業を受けるという体験は日本でもした事が無かったので、新鮮な気持ちでカレッジに向かいました。カレッジではバディと共に過ごし、その場所の雰囲気や全体感を全身で感じ取ったのですが、カレッジは「良い意味で」本当に自由な場所だなと感じました。いつでも生徒は笑顔で、のびのびとその場所で学校生活を営んでおり、そういった環境の中に自分が居ることができる、という事がとても幸せだと感じる2日間でした。

最後は、具体的なことでは無いのですが、「文化に触れる」という事です。この10日間の研修の中で現地の文化に触れる機会は、マオリショーを始めとして、数えきれないほどありました。僕がこの海外派遣に応募しようと思ったきっかけこそ、この「文化に触れる」という事だったので、それが実現し、さらに自分が想像していたよりも数、質共に素晴らしいものであったという事がとても嬉しかったです。

この研修を振り返って僕はこの自分にとって「一瞬」だったこの素晴らしい出来事を、「一瞬」の思い出では無く、「一生」の思い出として自分のこれからの人生に繋げていきたいなと思っています。「一生」の思い出という表現の仕方は、決して大げさだとは思いません。

今回の研修は「一生」の思い出という表現に、パズルのピースのようにピッタリはまる経験でした。この「一生」の思い出について書きたい事は他にも山のようにあります。しかしここでは、来年以降の派遣生に現地で感じて欲しいという思いを込めて、あまり多くは語らないことにします。是非、現地で「一生」の思い出という言葉の意味を全身で感じてください。

最後に、この「一生」の思い出を共に作り上げてきた同じ派遣団の団員、現地の方々、そしてそこまでの過程を作り上げて下さった、この研修に関わっている全ての方々に感謝の意を示したいと思います。



雄大な自然の中で



ホストファミリーとの別れ

団員レポート

一生の宝物

啓明学院中学校

宇仁菅 珠羽

私はこの10日間で、日本では体験できない事をニュージーランドに行って学ぶ事が出来ました。中学1年生の時からこの海外派遣に憧れていて、今回二度目の挑戦でした。合格が分かってから最初の研修までは本当に自分が受かったのか不安でした。「どんな仲間だろう。」それもまた不安でした。しかし、研修の回を重ねるごとに、「このメンバーと一緒にいけるんだ！」という喜びで、最初不安だったのが嘘みたいに、行く前には、最高の仲間と過ごす日々が楽しみでしかありませんでした。

私はこの海外派遣を通して、たくさんの経験をしましたが、その中でも素晴らしいと感じた事が3つあります。

1つ目は、マオリの文化です。今までは、テレビやインターネットでしか見る事が出来

ませんでした。実際にマオリの迫力のあるハカを見て、マオリの遊びをして、ハンギ料理を食べて、色々な事を知ることができ、それらの貴重な体験を通して、今までよりもマオリに興味がありました。ホストシスターがマオリ語を話せる事にも驚きました。大切な文化を伝えていく教育は、とても素晴らしいと思いました。異国の文化がこんなに面白く、さらに興味深く思ったのは初めてだったの



マラエの中の彫り物

で、これをきっかけにもっと他国の民族や文化について学びたいと思いました。

2つ目は、ホストファミリーと過ごした日々です。今回の海外派遣で貴重な体験をできたのは、ホストファミリーのお陰だと心から感謝しています。ニュージーランドについて色々な事を教えてくれ、またニュージーランドの素晴らしい場所にもたくさん案内してくれました。毎日おいしいごはんやお弁当を作ってくれました。常に私のことを気につ



ホストファミリーで旅行

て話しかけてくれたり、つたない英語でも汲み取ろうと一生懸命話を聞いてくれました。最初は喋っても伝わるかどうか不安でした。でも、いつも笑顔でほめてくれるながら話を聞いてくれました。その笑顔も何もかも私は忘れることが出来ません。そのお陰で、最後の日には、何も気にせずホストファミリーと笑顔で楽しく喋ることが出来るようになっていました。そして最後の朝、ホストシスターが「私たちの家に来てくれてありがとう。」と言ってくれました。

短い時間だったけど、私はここで、一緒に過ごせて本当に良かったと思いました。ずっと外国に家族が欲しいと思っていたので、今回のホームステイで夢を叶える事ができました。ニュージーランドの家族をこれからも本当の血の繋がった家族の様に大切に思い、連絡を取り続けようと思います。そして、いつかまた成長した姿で家族のもとに帰りたいと思います。

3つ目は、言葉や文化は違っても、同じ感情を共有できることの素晴らしさです。ある日、ホストシスターが面白い番組があるから一緒に観ようと言ってくれました。その番組は素人の人が奇想天外なケーキを作るという内容でした。私がある場面で笑っていたら同時にホストシスターも笑って

いました。私はなんだかとても嬉しくなりました。

ホストデー最終日、ティリティリマタンギ島に行った時も自然を見て綺麗だねと笑いあいました。面白いものを見て笑い、一緒に美しいものを見て感動する。言葉や文化が違っててもフィーリングで通じあえた時の喜びを感じました。

今回、2回目のチャレンジを諦めなかったお陰で、たくさんの一生の宝物を手に入れる事が出来ました。これからもこ



ホストマザーとダブルレインボー

の気持ちを忘れず、何事にもチャレンジしたいと思います。最後に、私をニュージーランドに行かせてくれた両親、英語を一生懸命教えて下さった担任の福田先生、最高の思い出を作ってくれた最高の仲間、梅谷さん、小林先生、加古川市国際交流協会の皆様に感謝しています。本当にありがとうございました。



ロトルアの羊と

団員レポート

最高の10日間

中部中学校

古賀 真尋

私は加古川市が中学生の海外派遣を行なっていることを中学校1年生の時に知りました。その時から、「私も合格してニュージーランドへ行きたい。」と思っており、今回応募しました。私は海外で本場の英語を勉強することが夢でした。そのため、合格発表で私の受験番号“15”を見た時は、信じられず、母と本当に受験番号が15だったかを何度も確認しました。この時、私は夢を叶えられるチャンスだとワクワクしていました。他の派遣生9人とも事前研修を通して、すぐに仲良くなりました。

いよいよ8月13日。仲良くなった仲間と一緒に、たくさんの人に見送られ、国際交流センターを出発しました。10時間におよぶ長いフライト。着くと、そこはニュージーランドです。暑い日本とは反対の冬、英語で書かれた看板、聞こえてくる言葉など、全てが新鮮で、これから始まるニュージーランドでの生活に不安を隠しきれませんでした。

私がニュージーランドで特に心に残っていることが2つあります。1つ目は、ホームステイです。旅行でホテルに泊まるのではなく、1人で現地の家庭で家族の一員として生活させてもらいます。ホストファミリーとの対面は、とても緊張していました。「どんな人だろう。自分の英語は通じるかな？」と色々なことを考えながら、お迎えを待っていると、ホストファザーが迎えに来てくれました。車の中で、色々質問してくれましたが、途中でわからなくなり、沈黙。しかし、「このままじゃ、ダメだ。」と思い、撮った写真を見せながら、単語を使って話しました。夜になって、ホストマザーが仕事から帰ってきました。初めて会った私に、ハグをして迎えてくれ、一



ホストファザーと対面



きれいな眺めのスカイタワー

気に不安がなくなりました。夕食の時、ホストマザーが、簡単な質問をしてくれ、会話をすることができました。しかし、ホストファザーとマザーの会話はとても速く、知らない単語もたくさんあって聞き取ることができません。黙ることしかできず、悔しかったです。その時から「英語を話しにきた！」と思って、自分からその日あったことや日本のことを言うようにしました。すると、相手も理解しようと聞いてくれ、伝わるようになりました。ホームステイ最終日には、相手の速い英語にもついていけるようになり、成長したと思います。

2つ目は、ラザフォード・カレッジでの授業体験です。2日間学校へ行きました。授業は全て英語で何も分かりません。すると、私のバディは、簡単な英語で教えてくれました。また、私が日本で習った内容もあり、逆に私が教えるということもありました。英語で説明するのは大変だけど、図を書きながらしました。バディにもらったメッセージに、「また会おう。」と書かれていました。次はもっと英語が話せるようになって、ニュージーランドへ行き、スムーズにバディと会話をしたいです。また、学校にいる間、笑顔でいることを意識しました。なぜかという、たくさんの人に、「笑顔でいいね！」と言われ、そこから話が始まることもありました。笑顔が話のきっかけになるなんて、日本では思いませんでした。でも、今回このことを学んだので、これから日本でも意識しようと思います。

私は今回、挑戦することがどれだけ大事かを学びました。最初は自分の言ったことが伝わらないことのほうが多かったです。でも諦めずに、何回も何回も伝えようとしたら、伝わりました。伝わった時は本当に嬉しくて、さらに英語を勉強したいと思いました。



庭でゆったりハンモック



羊の毛刈りのお兄さん

この機会を与えてくださった加古川市、国際交流センターのみなさん、合格できるようにと手伝ってくださった学校の先生方、応援してくれた家族、友達、向こうでお世話してくださった方、現地ガイドのおさむさん、引率してくださった梅谷さん、小林先生、そして、なにより10日間ニュージーランドと一緒に過ごし、励まし、支えてくれた最高の仲間。本当にありがとうございました。

団員レポート

最高の仲間と 10 日間

中部中学校

橘 萌菜

私が今回ニュージーランドで過ごした10日間は、すごくいい経験になりました。不安でいっぱいだった1日目。家族などたくさんの人に見送られ、国際交流センターを出発しました。

長時間のフライトを終え、空港では見渡す限り英語だけで「ついにニュージーランドに来たんだ」という実感が湧き、より不安が増しました。そして、1番緊張していたホストファミリーとの対面がありました。

しかし、ホストマザーが優しく出迎えてくれ質問などたくさん話しかけてくれたおかげで、不安や緊張は一気に吹き飛び、この10日間への期待だけが膨らみました。

8月15日のお昼ご飯は初めてホストファミリーが作ってくれたランチで、みんなでキドキしながらお弁当箱を開けました。サンドイッチやマフィンの他に、りんごが丸ごと

入っていました。他の子たちもバナナなどが、丸ごと入っていたのでニュージーランドでは当たり前のことなると、すごく驚きました。しかし、ニュージーランドでもお弁当を作ったり、昼食に持って行ったりする習慣があるんだと知って嬉しくなりました。

ラザフォード・カレッジの学校訪問ではマオリ式の歓迎式を披露してくださって、私はハカという

ものを見るのが初めてで、その力強さに圧倒されました。歓迎式の後には、みんなでニュージーランドの遊びをしたりしました。バディーとの授業は、黒板も先生がしてくれる説明も全て英語で最初は戸惑ったり、心が折れそうになりましたが、バディーがゆっくり説



バースデーパーティー



バディーと学校で

明してくれたので安心しました。ニュージーランドスラングという、ニュージーランド独自の言葉と、「ありがとう」などの日本語を教えあったりして楽しかったです。

ホストファミリーやバディーと話すのに少しずつ慣れてきた5日目。今日でバディーとはお別れでした。たった2日間だけでしたがバディーと仲良くなれてきた頃だったのでとても悲しかったです。海外の学校に通うことができるなんて、もう2度とない経験だと思うので本当に良かったです。

2日間のホストデーでは、ホストファミリーとの距離を1番縮められたと思います。たった6日間のホームステイでしたが、最後は涙でお別れするほど、私にとってかけがえのない時間となりました。家族の一員として温かく迎えてもらえたことが嬉しかったです。

ニュージーランド最終日、オークランド動物園の後のお土産ショップでは10人全員でお揃いのTシャツを買いました。本当に今回の派遣団は最高のメンバーでした。

最終日、国際交流センターでは家族や先生などたくさんの方が迎えに来てくれていて私はとても安心しました。そして、こんなにもたくさんの人に支えられているんだということに改めて実感しました。

私はこの10日間で言葉では言い表せないほどのとても良い経験をさせていただきました。この海外派遣事業を通して「挑戦すること」がとても大事だと感じました。文化の違う初めての環境で、新しく出会った人とコミュニケーションをとることは、簡単ではなかったですが上手に話せなくても諦めずに話そうとすれば、相手もゆっくり説明してくれたのでコミュニケーション力を高められたと思います。ですが、自分の英語がまだまだだと感じることもたくさんあったので、いつかもう1度ニュージーランドに行きホストファミリーに会うことを目標に、この海外派遣事業で学んだことや、感じたことをこれからの勉強に活かして頑張りたいと思います。



フードマーケットにて



女子メンバーと動物園

最後に、合格のために面接の練習に毎日付き合ってくださった学校の先生、ニュージーランドに行くことを応援し支えてくれた家族にとっても感謝しています。そして、最高の派遣団だったメンバー9人、引率の梅谷さん、小林先生、楽しい10日間をありがとうございました。

団員レポート

最高の10日間

平岡中学校

土田 康誠

今回の海外派遣事業が、僕にとって初めての海外となりました。受かった時は、うれしさもありましたが、しっかりとホストファミリーとコミュニケーションがとれるかと不安になっていました。また、事前研修は5回もありましたが、研修期間だけではなかなか他の派遣団員のみんなと打ち解けることができませんでした。そんな不安要素が数多くある中で出発しましたが、帰って来た時には、最高の旅となっていました。



ニュージーランド航空の飛行機

研修の初日、ニュージーランドへ行く移動のため、15時間以上を車や飛行機で過ごしました。僕たちが乗ったニュージーランド航空機は、マオリで健康などを願うときに用いられるシダの模様が施されていました。移動中はずっと、出発前とは違い、「ワクワク」する気持ちが止められませんでした。



昼食のフィッシュアンドチップス

翌朝、ニュージーランドに着くとそこはもう日本と違い真冬でした。そんな寒い中、現地ガイドのオサムさんに連れられ、昼食を食べに行きました。その後、少しオークランドの街中をバスで回り、すぐにホストファミリーとの対面となりました。さっきまでの「ワクワク」や「余裕」はすべて吹き飛び、「焦り」と「緊張」へと変わっていきました。家に着いて緊張していると、ホストマザーのジェニファーが優しく迎え入れてくれました。一番の不安要素でもあった英語での会話でし

たが、僕の発音が下手でも、何回でも聞き直してくれたり、リスニングに関しても、ゆっ

くり喋ってくれたりしたので、何も困ることはありませんでした。しかし、うまくコミュニケーションが取れたのは2日目からで、初日は自分自身が怖がってしまい、うまく話すことができませんでした。

こんなホームステイで僕自身が一番心に残っているのは、ホストファミリーに日本食を作ったことです。お好み焼きを作ろうとしたのですが、分量を間違い失敗してしまいました。しかし学校から帰って来たホストブラザーが「大丈夫?」と笑顔で声をかけてくれました。そしてホストマザーを呼んできてくれ、二人とも僕の日本食を手伝ってくれました。苦労しながら作った「お好み焼き」と「稲荷ずし」は、みんなが美味しいと言って、おかわりまでしてくれました。自分が作ったご飯をみんながおいしいと言いながら食べてくれているのを見て、とてもうれしかったです。

派遣団員のみんなと過ごした中で、一番楽しかったのは、やっぱり動物園でした。日本にもいるお馴染みの動物

もいれば、「キーウィバード」のようなニュージーランドにしか生息しない珍しい動物もいました。そこでは、日本の動物園のように一つ一つの檻に動物がいるのではなく、広い所に何種類かの動物がいるというような場所でした。とてもバリエーションが豊かで面白かったです。またニュージーランドの名物アイスである「ホーキーパーキー」も食べることができ、とても楽しい一日となりました。

僕にとって数多くの貴重な経験ができ、とてもよい思い出が心に残った派遣研修でした。言葉が通じず困ることもありましたが、今回の経験で「伝えたい」という思いがあれば、言葉は違っても必ず相手には伝わるということを学びました。また、日本での良いところも、オークランド市へ行くことで再発見することができました。普段とは違う場所で

生活したことによって、僕自身も今の生活に満足するのではなく、もっと自分から新しいことに挑戦したいと思うようになりました。

たくさんの方々に助けをもらいながら、この研修が成功したということのを常に忘れず、その関わってくれた先生方や現地の人、ホストファミリーに感謝してこの経験をこれからの生活へと生かしていき、またニュージーランドへ行きたいと思います。



動物園の珍しい鳥



羊の赤ちゃん

団員レポート

最高の仲間と夢の10日間

山手中学校

戸塚 彩

私は小学生の頃からこの海外派遣に絶対参加したいと思っていました。そのため、合格と知った時は安心と同時に嬉しすぎて涙が出てきました。出発する前から自分の英語が通じるのか、食事は口に合うのかという不安とどんな人に出会えるのか、どんな文化を学び、自然にふれることができるのかという期待と楽しみでいっぱいでした。

いよいよ出発の日。数回の研修を終え仲良くなった派遣団。バスの中でも大爆笑し、より仲が深まりました。11時間のフライトを終え、ニュージーランドに到着しました。正直あまり実感がわきませんでした。飛行機を降りると夏の暑い日本と違って肌寒く感じ、辺りを見回すと英語表記になっているのに気づき、ニュージーランドに来たと実感がわいてきました。ニュージーランドに到着してすぐフィッシュ&チップスを食べました。一度食べてみたいと思っていたので嬉しかったのですが、量が少し多かったです。しかしとてもおいしかったです。次にオークランドの街を案内していただきました。私が想像していたような自然が豊かで美しい景色が広がっていました。



ホストファザーのピーターと



パディーと一緒に

そして、不安と期待の中、ホストファミリーと対面しました。初対面の私に優しく話しかけてくれ、まるで家族のように温かく迎えてくれました。夜にホストマザーと派遣団二人とナイトマーケットに行きました。色々なお店が並んでいて日本で言う屋台のような場所でした。そこでラーメンを食べました。とても楽しかったです。

4日目はラザフォード・カレッジへの学校訪問でした。そこでマオリ式の歓迎式に参加しました。ニュージーランド伝統のポ

フィリという儀式で歓迎してくれました。ハカはとても迫力があり、格好よかったです。マオリの儀式を見て文化を大切にしていると思いました。学校には、様々な国の生徒がいて、人種や性別を問わずとても仲が良く、本当に素敵なことだと感じました。授業体験の時は、中国人の生徒が日本語で話しかけてくれ、名前も覚えてくれたのでとても嬉しかったです。フレンドリーな人が多いと感じた瞬間でした。

6日目と7日目のホストデーは、ショッピングセンターで買い物をしたり、ホットプールへ行きました。

最終日には、日本から持って行った材料を使ってお好み焼きを作りました。ホストファミリーの口に合うのか不安はありました。しかし、「ベリーナイス」と言って食べてくれて、とても嬉しかったです。充実した2日間でした。楽しい時間もあっという間に終わってしまいました。「ここに居てもいいよ」と言ってくれたり、別れる時はハグしてくれました。ホストファミリーと過ごした時間が私にとって大切な宝物になりました。ニュージーランドにもう一つの家族ができたようで嬉しかったです。

8日目は、ロトルアへ移動し、羊の毛刈りショーを見ました。そこで急に選ばれて、牛の乳しぼりを体験しました。びっくりしたけれど、とても貴重な体験が出来たと思います。羊の毛刈りは見ていて気持ち良かったし、毛を刈るスピードに驚きました。

この10日間で私が学んだ事は、単語をつなげて会話することで、「何事にも挑戦すること」そして、この9人に会い、現地でたくさんの人に出会うことで「出会いを大切にする」ということです。そして改めて日本が大好きだと感じました。この海外派遣に参加した



ホストマザーと鶴を折る

ことで将来の夢に一步近づけたと思います。

最後に、今回このような貴重な体験ができたのは、9人の派遣団の仲間や引率して下さった梅谷さん、小林先生のおかげです。そして現地でお世話になった方々、海外派遣にしてくれた家族に感謝しています。ありがとうございました。また必ずニュージーランドを訪れたいです。



仔羊との触れ合い

団員レポート

最高の仲間との最高の10日間

加古川中学校

成瀬 綾音

私はこの海外派遣で、一生の思い出になるとてもたくさんの貴重な経験をしました。

私がこの海外派遣を知ったのは、去年の夏でした。小学生のころから英語を習っていて、海外で英語を学ぶことにとても興味がありました。そんな中、この海外派遣のことを知り、迷わず応募しました。しかし倍率は3, 9倍。正直自分が選ばれるなんて思ってもいませんでしたが、自分なりに全力で挑みました。合格の通知を見たときは、嬉しすぎて言葉が出ませんでした。最初はなかなか実感が持てませんでした。みんなとの研修を重ねていくにつれて、ニュージーランドに行くのがどんどん楽しみになっていきました。

待ちに待った出発の日。大きな荷物と大きな期待を抱えて、いざニュージーランドへ。冬のニュージーランドは風がとても冷たくて、到着直後は日本の暑さが恋しくなるくらいでした。



ラグビーの試合にて！



マオリの生徒と！

現地では、市役所庁舎での表敬訪問、オークランド博物館やロトルアでの間欠泉の見学など、ニュージーランドでしかできない体験をしました。ロトルアとオークランド動物園でキーウィを見ることができたのは、本当にうれしかったです。ガイドのおさむさんは、「何十回も見に来ているけどキーウィが出てきてくれるのは本当にラッキーなことだよ」と言ってくれました。夜には、念願だった南十字星を見ることができました。日本と違い、ニュージーランド

の街にはネオンも少なく、空気も澄んでいるのでとてもきれいに見えました。

私のホストファミリーは、お母さんと、0歳、3歳、12歳の男の子と、2歳、14歳の女の子の6人家族でした。会ってすぐの車の中ではずんだ会話は、今でもしっかり覚えています。その夜には、日本から持ってきたお土産をみんなにプレゼントしました。12歳の男の子にはお祭りでする法被を着せてあげると嬉しそうで、ずっと着



ラザフォードカレッジで！

てくれていました。ホストデーには、車で40分ほどかけて、ビーチに行きました。山の斜面を登るのはとてもハードでしたが、頂上で見た太平洋はとてもきれいでした。

ラザフォード・カレッジには、毎朝ホストシスターとバスに乗って通学しました。バディは、ホストシスターと同じクラスのブルックリンという子でした。ブルックリンは勉強熱心で、少しシャイなところもあったけど、話してみると、とてもやさしい人でした。私の授業科目は数学、理科、演劇、体育で、日本の学校とは違って、その学校では授業が選択制で、それぞれが受けたい授業を楽しそうに受けていました。

最後のランチタイムには、みんなのバディとピザを食べました。好きなアーティストの話をしたり、趣味の話をしたりと、すごく楽しかったです。

私はこの派遣研修で、コミュニケーションの大切さを学びました。少々、英語が聞き取れなくても、目を合わせて、笑顔で話すと通じるものがあるのに気付きました。日本では誰もが控えめですが、海外の人は、本当に積極的でした。私はニュージーランドで、「自分から挑戦すること」と「感謝の気持ち」が本当に大切なことを実感しました。



大好きなホストシスター

最後に、この派遣事業に携わっていただいた方々、応援してくれた友達や学校の先生、家族のみんな、引率してくれた梅谷さん、小林先生、そしてこの10日間を共に

すごした派遣団のみんなに感謝して、私にこんな機会を与えていただき「ほんとうにありがとうございます」と言いたいです。海外派遣で、ニュージーランドに行ったことを糧に、もっともっと英語の勉強に力を入れて、将来はぜひ英語を使って人を幸せにする仕事に就きたいです。人との新たな出会いを大事にし、感謝の気持ちと挑戦し続けることを忘れずに、これからも勉強し続けたいと思います。本当にありがとうございました！

団員レポート

ニュージーランドでの夏休み

山手中学校

濱田 茜

まず、この海外派遣に携わっておられる皆様、貴重な体験をさせていただきありがとうございます。そして、最高の仲間をありがとうございました！

今回の事業は私にとって初めてのことばかりでした。海外へ行くのも、ロングフライトで機内泊をするのも、そして、ホームステイをするのも。また、周りの子はみな頭が良く、本当に私でいいのかと不安になることもありました。私らしく、私達らしく過ごせた10日間は最高の思い出となりました。



モニカとチノとお散歩中

ニュージーランドで過ごした中で特に印象に残っていることが3つあります。1つ目は、入国前からずっと気になっていたホストファミリーとの対面です。仕事の関係で来られないホストマザーのモニカさんの代わりにモニカさんのお母さんが迎えに来てくれました。少し残念でしたがモニカさんの家に行くと玄関で待っていてくれ、明るい笑顔で私を迎えてくれました。29歳のモニカさんはとても若くて可愛く、お母さんと言うよりは、お姉ちゃんみたいな印象でした。私のホームステイ先は女性の一人暮らしで犬が一匹と言う情報しかわからなかったため少し不安もありましたが、会ってモニカさんの笑顔を見たらとても安心しました。



私のバディー テイラー

私には姉がないので、モニカさんと過ごした時間はとても新鮮に思えました。夜、恋愛について語り合ったり、休みの日にはギフトショップへショッピングに

行ったりと、とても楽しく過ごす事が出来ました。愛犬（パグ犬）チノの散歩に一緒に行ったのも普通の生活の様でいい思い出です。とても楽しい毎日でした。たまたま近くでホームステイ中の同派遣生の戸塚さんと橘さんとホットプールに行けたのもリラックスできてよかったです。

2つ目は、ラザフォード・カレッジでの学校生活です。テイラーと言うバディーと一緒に授業を受けたり、休み時間にはお菓子を食べたり、互いに英語と日本語を教え合ったりしました。私はK-popが好きで、偶然にもテイラーも韓国が好き

だったので、会話も盛り上がりたくさん話をする事が出来ました。とても楽しかったです。日本とは全く違う授業風景だったので文化や習慣の違いも感じました。でも、色々な国の人が違和感なく仲良く過ごす雰囲気はとても居心地が良く不思議な感じもしました。

学校最後の日には、テイラーから薄いピンクのとってもきれいなクリスタルのネックレスをプレゼントしてもらいました。これは私の大切な宝物になりました。日本に帰って来た今も、バディーや仲良くなった友達とインスタグラムやラインで連絡を取り合っています。英語で会話をするのは難しいですが、きちんと伝われば嬉しいし自分も理解できれば会話もはずみとても楽しいです。

3つ目は、ロトルアで観たマオリショーです。先住民のマオリ人による相手を威嚇する踊りで、目を見開いて舌を出すハカはとても力強くカッコよく、貴重なものを目の当たりにする事ができ感動しました。大人のマオリショーも子どものマオリショーもどちらもとても迫力満点でした。そして、伝統を大切にしている国だなとも思いました。男の人が顔に入れているタトゥーの柄も珍しく特に口の周りは驚くほどでした。

また、今回同じ派遣生の橘さんのステイ先はモニカさんの実家で、ホームステイ中に2回もお泊りに行きました。まるで大家族の様で「ファミリー」と呼び合っていました。



ホストデー1日目！植物園にて



マオリショーにて威嚇のポーズ！

どちらのホストファミリーの皆さんも、私をお客様と言うよりは本当の家族の様に迎え接してくれたので、緊張もなく毎日自然に生活する事が出来ました。大学生になったらきっとまた帰っておいでとも言ってくれました。

広い世界のたくさんいる人の中で今回出会えた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、快く送り出してくれた日本の家族に感謝しています。

団員レポート

たくさんのことを学ぶことが出来た10日間

平岡中学校

廣瀬 生汰

僕は小学生の時に、この海外派遣事業のことを人伝てに知りました。そして、いつかは海外に1人で行きたいという思いから応募しました。たくさんの方が受験されていたので、合格することは難しいと思っていたのですが、合格発表で自分の受験番号を見つけた時に、あまりにも嬉し過ぎて大声で『キャー！』と叫んでしまいました。

そして、事前研修を積み重ねて、ついに迎えた出発式、派遣生全員が興奮していて、集合時間よりも、かなり早く集まっていたことを思い出します。

出発式を終えいよいよ出発。オークランド国際空港に到着後、税関で英語が耳に入ってきた時に日本を離れたことを実感しました。この海外派遣事業の前に家族で何度か海外に行ったことがあったので、自分では全く困ることは無いと考えていましたが、今の自分の力だけで海外に行くことは不可能であるということを海外派遣事業で最初に学びました。

2つ目に学んだことは、一生懸命やれば何とかできるということです。4日目にバディと一緒に授業を受けた日の休み時間に、みんなが僕に色々と話しかけてくれたのですが、会話のスピードが非常に速かったので何を言われているのかを全く理解することが出来ず、予定していた場所に行くことが出来ませんでした。

幸い5日目にもチャンスがあったので、今度は自分から、たくさんの質問をしてみるとバディだけでなく、他の生徒からも声をかけてもらえるようになり仲良くなることが出来ました。この時、無茶苦茶な英語でも、と



快適だったニュージーランド航空



仲良くなったバディとの2ショット

にかく話をしてみると通じるものだなと感じました。

3つ目は、オークランドにはたくさんの移民、特に中国人の方が多いことを学びました。中国からの留学生と移民の中国人が中国語でたくさん話をしていた時に、ここは中国だろうかと錯覚に陥った時の少し不思議な感覚が、とても面白かったです。

4つ目に学んだことは、ニュージーランドでは早寝早起きが当たり前ということです。ニュージーランドは夜間の治安がよいというわけではないため、24時間営業の店が全く無いそうです。そのため、朝起きるのが早く、男性は仕事が終わったら、寄り道せずに真っ直ぐ家に帰ることが当たり前であることを知りました。



ホストファミリーと留学生

5つ目に学んだことは、ニュージーランドが車社会であるということです。日本では電車で通勤している人が多いと思いますが、ニュージーランドでは鉄道があまり発達していないため、ほとんどの人が車で移動していることを知りました。その関係で高速道路は無料とのことでした。ホストファミリーから「この車にETCカードを入れる

場所があるんだけど何のためにあるの？」と聞かれたので「日本では高速道路が有料だから、これで払うんだよ。」と答えると、とても驚いていました。まだまだ他にも学んだことはありましたが、特に印象に残った5つのことを紹介しました。

海外での10日間は、とても長いと思う人が多いと思いますが、なんとなく過ごしていると一瞬で終わってしまいます。これから海外に行こう、行きたいと考えている人が、海外での貴重な時間を大切に過ごせるように、今回、僕自身が学んだことをアドバイスさせて頂きます。まずは英単語に自信が無くても、正しい文法がわからなくても『気持ちを伝えるんだ！』と必死で話し続けると相手に自分の気持ちを伝えることが出来ます。是非、頑張って挑戦して下さい。そして自分が欲しいと思った物は絶対に買うべきだと思います。『あの時に買っておけば良かった。』のような後悔をしないためにもね！

最後になりましたが、お父さん、お母さん、そして、アドバイスを下さった先生方、この事業に携わって下さった皆様、本当にありがとうございました。



留学生とスカイタワーで2ショット

団員レポート

思い出になった10日間

滝川第二中学校

福田 拓音

僕は1人で海外に行ったことがなかったので、この海外派遣事業にとっても興味を持ち、応募させていただきました。合格発表の番号を見たときは、家族みんなで喜びました。最初はあんまり喋ることができなかった仲間とも、研修を重ねていくうちに仲良くなりました。

出発の日ワクワクよりも、海外に行ける喜びの方が大きかったです。飛行機の乗り継ぎが難しかったけれど友達にも助けられ、スムーズに行くことができました。羽田空港からオークランド国際空港の9時間ほどは、映画を見たりチャットをしたりしていると、時間が過ぎるのが早かったです。窓から見える星空がとてもきれいでした。オリオン座の向きが変わっていて、面白かったです。

ニュージーランドに到着すると、とても風が冷たく気温の変化に驚きました。お昼には、フィッシュアンドチップスを食べました。有名なだけあって、とても美味しかったです。バスの移動中は眠たくて、ほとんど寝ていました。



ホストファザーとの2ショット

ホストファミリーとの対面では、1番最後だったのでとても緊張しました。車の中で、話しかけることに戸惑っていると、ホストファザーがどんどん話をしてくれ、緊張がほぐれました。ホストブラザーは僕よりも4歳年下でしたが、ニュージーランドのことや、家族のことをたくさん話してくれたので、すぐに仲良くなることができました。

僕以外にも中国人2人がホームステイに来ていました。一緒にゲームしよう！と話しかけてくれたので、とても安心しました。



日本庭園にて

3日目以降はニュージーランドのいろいろな場所に行きました。まず、加古川市が寄贈したオークランドにある日本庭園に行きました。日本の文化を取り入れた庭園は日本にいたような錯覚を思わせました。

次に、オークランド戦争博物館に行きました。そこで日本との関わりも知ることができました。そして、オークランド市役所を訪れました。オークランド市議会議員の方が歓迎してくれて、おかしや飲み物をごちそうしてもらいました。とても美味しかったです。

次の日には、ラザフォード・カレッジへ学校訪問に行きました。学生によるマオリ族のハカを見たときは迫力がすごく、とても驚きました。でも、実際はとてもいい人たちばかりで、おかしを食べたりゲームをしたりしました。学校ではモーニングティーの時間があったりして、日本の文化との違いを感じました。

5日目の夕飯は、僕が稲荷寿司を作りました。ホストブラザーも手伝ってくれ、美味しく出来上がりました。8日目はテプイアという所に行きました。硫黄のにおい（卵の腐ったようなにおい）がしました。泥がポコポコしていて、そこから煙が吹き上がっていました。羊の毛刈りショーにも行きました。バリカンで羊の毛を刈る姿はとても恐ろしいけど、面白かったです。羊の王様、メリノ種の角が立派で、かっこよかったです。最後に羊の毛を少しもらい、凄く臭いますがフワフワしていて、気持ちいいです。

9日目は、レインフォレストに行きました。ものすごく高い木がたくさん並んでいて、異世界にいるみたいでした。アオテアギフトショップでは、10人の仲間みんなでおそろいのTシャツを買いました。シダの葉が刺繍されていて、かっこいいです。



レインフォレストにて

この10日間で、僕の英語力はとても向上したと思います。初めは英語のスピードが速く、上手く聞き取ることができず不安に思っていました。最後には家庭内の会話にも少し入ることができるようになりました。ニュージーランドでのことは、すべてが日本では絶対に味わうことのできない経験ばかりだったので、とても充実した10日間を過ごすことができました。次行く時は、もっと英語力が向上しているといいなと思います。

最後に、こんな素敵な経験をさせていただいたすべての人に感謝の気持ちを伝えたいと思います。本当にありがとうございました。



男子みんなで記念写真

団員レポート（団長）

ありがとう、ニュージーランド！

平岡中学校教諭

小林 奏子

第28回目の加古川市中学校海外派遣団に引率教師として同行させていただきました。同じ市内在住、でありながら、在籍している学校がそれぞれ異なるため、知らない生徒たちが集まりました。最初は少し人見知りをしていたようにも見えた生徒たちも、事前研修の回数を経るごとにどんどん仲良くなっていました。

私自身、一番印象に残っているのは、ラザフォード・カレッジ訪問の2日間です。ラザフォード・カレッジでは、ポフィリというマオリ式の歓迎式を体験したり、現地の学生のバディと共に派遣生たちが授業を受けたりしました。

ポフィリでは厳粛な雰囲気の中、マオリの学生が歌を披露してくれました。その後現地の学生と派遣生がともにマオリのゲームをし、そして現地の学生たちがハカを見せてくれました。テレビで見たオールブラックスの試合の前のハカ、そしてロトルアのホテルで見たハカ、とニュージーランド滞在中に3度ハカを見る機会がありました。その中でいちばん迫力を感じたのがラザフォード・カレッジの生徒たちが見せてくれたハカで



フィッシュ&チップス

した。綺麗な歌声からは私たち派遣団を歓迎しようという温かい思いが伝わり、大きく激しく踊る姿には臨場感がありました。派遣生たちも私も言葉を失い圧倒されるほどでした。

授業体験ではバディとともに数学や理科・英語・家庭科など日本の学校でも普段から学習している教科はもちろん、日本の科目にはない「演劇」の授業を受けた生徒もいました。英語で展開される授



授業風景

業に、どの生徒も悪戦苦闘しながら、しかし楽しみながら授業に参加することができました。

また、ラザフォード・カレッジの生徒たちも先生方もたいへん気さくな方が多かったです。「ハロー」や「ハイ」だけでなく「コンニチハ」という言葉も校内を歩いているときによくかけられました。派遣生たちはバディとも積極的にコミュニケーションを図ることができていたようで、授業体験の2日目にはバディと手紙やプレゼント交換をしていた派遣生もあり、短い時間で

したが温かい人間関係を築くことができましたようです。先生方も、丁寧に授業や学校についての説明をしてくださり、ホスピタリティ精神を感じることができました。

日々の生活や週末2日間のホストデーを通して、派遣生たちはホストファミリーともたくさんの思い出を作ることができたようです。最終日、日本へ戻る飛行機の中で「この飛行機から降りたら到着先がニュージーランドだったらいいのに」や「ホストファミリーの作ったご飯が食べたい」と言っている派遣生がとても多かったです。その発言からこの10日間がとても充実したものだったことが伝わってきました。思い返してみれば、どの研修先を訪れたときも派遣生たちは笑顔で研修に参加していました。それだけこのニュージーランドでの研修が充実していたり、魅力的なものだと感じたりしているのだということがわかりました。

オークランドの街中を歩いていた時も感じたことですが、ニュージーランドは多民族国家であり、多文化共生国家です。アルファベットはもちろん、漢字だって街中にはあふれています。またオークランドの街から少し離れれば、ゆったりした時間の流れの中で羊や牛が草を食んでいる。そんな雄大な自然にも恵まれた国でもあります。そんな素晴らしい環境で心温まる出会いや経験ができたことに感謝の気持ちでいっぱいです。



郊外に出れば雄大な自然も



迫力満点のハカ

海外派遣期間中のみならず、いろいろな場面で派遣団のフォローをしてくださった梅谷さん、現地でお世話になった新本さん、加古川市役所や国際交流協会の方々をはじめ、この事業にかかわってくださっているすべての方に感謝し、今後の加古川市の教育の発展に生かしていきたいと思います。今後もこの事業の継続および発展を切に願っております。

思い出のページ



オークランド市役所庁舎の前で



ハーバーブリッジの前で



オークランド博物館



オークランド市役所表敬訪問



レッドウッドフォレスト



ラザフォード・カレッジ



ホストファミリーと一緒に



フィッシュ&チップスを食べました



表敬訪問にて派遣生が英語で挨拶！



羊の毛刈りショー



ロトルア

加古川市委託事業

公益財団法人 加古川市国際交流協会

〒675-0017 兵庫県加古川市野口町良野387-1

TEL : 079-425-1166

FAX : 079-425-0200
